

英語多読指導のパイロットプロジェクト：
英語リーディングキャンペーン
— 自立した読み手の育成を目指して —

多田 昌夫*¹ Visgatis Brad*² 正木美知子*³

**A pilot project on extensive reading in English:
An English reading campaign
— toward the nurturing of independent readers —**

Masao Tada*¹ Brad Visgatis*² Michiko Masaki*³

Abstract

This paper reports on a one-month pilot extensive reading campaign conducted in 2000 that was designed to raise student motivation to read in English. Results indicated that students who actively participated in this campaign developed both positive attitudes toward, and increased confidence in reading in English. These results also implied that increased motivation to read could be generated through such campaigns. Moreover, these results also highlight the importance of teacher intervention in promoting out-of-class English reading habits among EFL learners.

キーワード

リーディング、多読、graded readers

I. 英語リーディング指導のアプローチと多読指導の効用

多読指導は、現在世界中で拡がりつつある英語リーディングの指導法のひとつである (Day and Bamford, 1998; Elley and Mungubhai, 1981; Ghrib, 2003; Hill, 1997; Kitao, Yamamoto, Kitao & Shimatani, 1990; Mason & Krashen, 1997; Mori, 2002a, 2002b; Nation, 1997; Takase 2002, 2003, 2004, 2007)。その背景として、リーディング理論と一致したリーディング指導法としての多読の意義が唱えられていることがある (Bamford & Day, 1998; Day & Bamford, 1998, Waring, 1997)。第2言語 (外国語) 教育においては、英語力が初級や中級の学習者にとってはgraded readersを用いたリーディング指導が最良の

* 1 ただ まさお：大阪国際大学人間科学部教授 (2007.6.14受理)

* 2 ブラッド ヴィスゲイテス：大阪国際大学人間科学部教授

* 3 まさき みちこ：大阪国際大学人間科学部教授

方法であるとの指摘が有る (Bamford 1984)。しかし、授業時間内で学生がgraded readersを読むsustained silent reading (Collins, 1980) などの活動を組み込むことは、時間的な問題などがあり現実的にはなかなか難しい。実際に行われている多読活動の実践としては、主に授業外活動として学生にgraded readersを読むことを奨励することが多いようである (Waring, 1997)。現在拡がりつつある英語多読指導にはどのような意義が有るのだろうか。以下では、英語のリーディング指導のアプローチを紹介し、その1つである多読指導の効用について考察する。

Bamford and Day (1998) によれば、英語リーディングの授業には以下の4つのアプローチがある¹⁾。(1) 文法訳読型、(2) 内容把握質問・言語作業型、(3) スキルとストラテジー型、および、(4) 多読指導型である。これらを日本の文脈にあてはめて考えてみると以下のようになる。(1) 文法訳読型は、伝統的指導法といわれるとおり、日本でも中学校・高等学校で現在に至るまで長い間用いられてきた方法である。教師が教科書などの英文を読み、学習者がその後について一文ずつ音読をする。その後学習者に一文一文日本語に翻訳をさせる。学習者は英文の意味を日本語を通して理解し、直読直解はしない。また教師は文中に出てくる文法や語句などの言語項目の説明をする。(2) 内容把握質問と言語作業型では、短い英文の後に内容把握の問題が付属した教材が使われるが、これも高等学校の大学受験指導でよく使われる方法である。また、大学でもTOEFLやTOEIC、実用英語検定試験等の英語の能力試験の準備をするためのクラス等でよく使われる方法である。教師はテキストを読む前に単語等読解の助けになる言語項目を教えておく。引き続いて学習者はテキストの音読などをした後、付属の内容把握問題に答える。そして、テキストに関連する様々な言語項目(文法・語彙・コロケーション等)についての練習問題をそれに続けて解いていく。(3) スキルとストラテジー型は、読む前の段階でテキスト背景に関するスキーマを活性化させるようなタスクをし、テキストを読む段階では、読む目的となるような質問に対する答えを探すことなどを念頭において英文を読解する。そしてテキストを読んだ後で、読解スキル・ストラテジー(全体的な内容理解、詳細な内容理解、中心となるアイデアをつかむskimming、特定の情報を捜して読むscanning、推測読み、未知語の推測を文脈の中でするなど)を使う練習をする。最近の「和訳先渡し授業」(Kanatani & Kochi ken koukou jugyou kenkyu project team, 2004) 等で見られるように、読解スキルやストラテジーを使う様々なタスクを学習者に経験させることにより、言語材料(文法・語句等)の指導や英文和訳をするだけではない、最終的に英文の直読直解を目指した指導が、高等学校でも実践され始めている。スキルやストラテジーを練習するような教科書は、大学生用のものでも見られる。最後の(4)多読指導型では、学習者が各自興味を持てるテキスト(graded readersや雑誌・新聞記事など)を選び、主に自分で授業以外に時間を見つけて読む。テキストは学習者の英語能力の範囲内で苦にならず楽しく読むことができるものでジャンルや話題なども各自が興味のもてるものを選ぶようにさせる。また、多読教材としてclass reader(共通教材)を使うことも有る。その場合には、クラスの時間を一部使って、教員がテキストを音読する一方学習者がそれを聞きながらテキストを黙読することや、sustained silent reading(SSR)と呼ばれる学習者が全員教室内で黙読をする

方法もある（SSRでは学習者が各自選んだ本を読む場合も有る）。

Bamford and Day（1998）は、これら4つの指導法のうちでは、スキル・ストラテジー型が実際に多くの英語教育プログラムにおいて中心となっているが、スキル・ストラテジーの指導だけでは不十分であることを指摘している。それによれば、学習者はスキルやストラテジーの修得よりも前に、英語リーディングの基礎能力として単語の自動的な処理をする能力を身に着けたり、英語リーディングに対する肯定的態度や動機付けを身につけたりすることが重要であり、それらが無い状態でスキルやストラテジートレーニングを教えても、基本的な識字能力を身に着けることに失敗する学習者が多い。

Bamford and Day は、こういう状況を避ける1つの方法として、多読指導を取り入れることが解決策となると主張している。多読指導は学習者の動機付けにつながり、それが自立した学習者を作る働きをする。言い換えると、多読指導では、学習者が自分で読みたいテキストを選び、自分の好きな時に読むように指導することが多いが、学習者がこのように各自が読むものを選び付けられないで、読みたいテキストや読む場所・時間を選ぶ自由を持つことによって、自身の学習を制御しているという感覚を持てること、また、学習者が、学習の過程で経験する成功や失敗を自分自身のとったストラテジーや努力に起因させるというような心理的な働きがあると考えられる。さらに、Bamford and Day は、英語で読むことに成功した経験がある学習者は英語のリーディングに対して肯定的な態度を持つようになり、翻って、その態度が学習者に更に英語の本を読む気にさせる原動力となるというリーディング自体の持つ力についても言及している。

Waring（1997）は、学習者が段階的に言語レベルを上げていく読み方graded readingによる多読をすることによるメリットとして（1）リーディング速度、（2）語彙に対するアクセスの速度、（3）リーディングのfluency、そして、（4）一語ずつの処理から意味単位レベルでの処理への移行などの点で発達する効果があると主張している。Waringによれば、初級の学習者はリーディングの際に、語を一語一語解読する処理(decoding)をする。しかし、初級の英語学習者が英文を多く読めば読むほど読んだ語を覚えるようになり、徐々に、語レベルでの処理から抜け出してアイデア（意味）単位での処理ができるようになっていく。そのレベルまで達すると、学習者は背景情報などを使ってテキストの理解できない部分を推測することができるようになる。リーディング能力とは、このような意味レベルでの処理ができる能力を意味する。Waringは、そのような能力を身に着けるためには、辞書を使って一語一語解読したり、ノートに英文やその解説翻訳だけを書いたりするような精読(intensive reading)だけでは不十分であり、多読(extensive reading)が必要であると主張している。

以上見てきたようにリーディングの指導のアプローチとして多読指導を取り入れることで、一斉授業の形態で行う精読の授業では起こりにくいであろうリーディング本来の姿である楽しみながらすらすらと英文を読むという体験を学習者一人ひとりにさせることが可能となる。また、リーディングの授業の中で、多読をリーディングのストラテジーやスキル授業への予備段階としての指導として取り入れたり、それらを学習した後に実際に使う練習をしたりすることにも使える。こういった点において、多読指導は他の3つのアプロ

ーチの授業を補完するものであるといえる。4つのアプローチはそれぞれ排他的なものではなく、リーディングを教える教師は、バランスよく学習者の英語リーディング能力を発達させるために、学生・プログラムのニーズや学習目標にあったアプローチを組み合わせた指導をすることが肝要である。

Ⅱ. 多読指導の効果についての実証的研究

多読が学習者の肯定的な動機付けやリーディング能力向上につながるという実証的な研究結果も報告されている。以下では、多読と英語能力の向上についての研究と、多読と学習動機の関係について調べた研究を紹介する。

Robb and Susser (1989) では、日本人の大学一年生に対して多読とスキルトレーニングの2種類の授業をした結果、多読のグループは重要な事実を見つける能力、文脈から未知語を推測する能力の点において、スキルグループよりも高かった。

Suzuki (1996) では、進学校の高校で英語指導に多読プログラムを組み込んだ。この高校では、生徒を大学入試に合格させるために伝統的な英語教授法が主な教授法として取り入れられていた。Suzukiは英語リーディングに興味がある生徒を対象としてペーパーバッククラブを組織して、放課後に生徒に英語リーディングに取り組ませた。そして、ペーパーバッククラブに参加した学生が読んだページ数と英語能力試験との関係を調べた。その結果、多読に取り組んだ学生のなかで300ページ以上を読んだ学生は、英語リーディング能力およびリスニング能力の点で大きな伸びが見られた。

Mason and Krashen (1997) では、授業で提供された多読プログラムで多読に取り組んだ日本人大学生が、英語リーディングに対して肯定的な態度を持つようになったことに加えて、リーディング能力の向上も見られたことを報告している。この研究では、3つの報告がされている。まず、一つ目の研究では、学期初めには学習意欲が少なく、また、Clozeテストにおいて平均的な学習者より低い得点をとった英語学習者が、最低50冊を読むことを要求された多読クラスに参加した結果、その学期が終わった後に、Clozeテストの得点において他のグループよりも高い伸びを示した。二つ目の研究では、4年生大学および短期大学の英語学習者を二つのグループにわけ、1つのグループは読解を直接教える指導法を取り、もう1つのクラスでは多読をさせた。Clozeテストによる事前・事後テストの結果多読グループは、他のグループよりもより大きな伸びを示した。3番目の研究では、多読クラスに参加した学生で要約を日本語で書いたグループ、英語で書いたグループ、および、コントロールグループの3つを比較した。Clozeテストの結果、いずれの多読グループの学生もコントロールグループの学生よりも多くの伸びを示した。

Takase (2007) は、日本人の女子高校生219名を対象に、graded readersを用いて一年間の多読プログラムを実施し多読指導を行った。その結果、生徒が読む英語のリーディング量を予測する要因として最も強かったのが、L2（英語）リーディングに対する内発的動機とL1（日本語）リーディングに対する内発的動機の2つの要因であった。しかし、L1でのリーディング量とL2でのリーディング量の相関関係は見られなかった。日本語での読書習慣を持たない学習者であっても一年間の指導を通じて英語の本を読んでいく中

で、英語でのリーディングを楽しみ、英語でのリーディングに成就感を持ったことが分かった。

以上のように、英語の多読は、英語能力を伸ばすことや英語リーディングの動機付けや学習者の成就感において効果があるという研究が数多く見られる。

Ⅲ. 英語多読指導のパイロットプロジェクトとしての2000年度の英語リーディングキャンペーン

以下では、2000年度に英語多読指導のパイロットプロジェクトとしての英語リーディングキャンペーンについての報告をする。まず、リーディングキャンペーンの概要を紹介し、その結果を元に、英語多読活動に対する学生の反応や多読指導を促進するための方法や注意すべき点を検討する。また、今後、英語多読指導を進める際に直面すると想定される問題点や課題についての考察を行う。

1. 英語リーディングキャンペーン（2000年度）の概要

目的

2000年度の英語リーディングキャンペーンは、以下の目的を設定して行った。

- (1) 学生に英語でのリーディングの楽しみを体験させる
- (2) 学生に英語リーディングに対する達成感と自信を持たせる
- (3) 学生の英語リーディング量を増やし、精読ではない読み方を体験させる
- (4) 学生が授業外での英語リーディングをどの程度実際にするかを調べる
- (5) 英語リーディング授業等に多読指導を取り入れることの意義を再考する
- (6) 今後の英語リーディング指導で、図書館所蔵のgraded readersをさらに利用するきっかけにする

2. 期間

2000年10月16日(月)－11月17日(金)の約1ヶ月の期間

3. 方法

材料

事前に以下の資料を作成し英語担当教員に配布した。(1) 英語担当教員向けの趣旨説明文、(2) 学生向けの趣旨説明文、(3) 学生が本を読了した後に書くブックレポート、(4)、リーディングキャンペーンに対する感想文用紙(学生に期間の終わりに記入させることとした)。

4. 手順

リーディングキャンペーンは、試験的な試みとして実施し易さを主眼においたため、教員は自由参加という形にして参加者を募った。参加教員には、キャンペーンの開始時に学生に趣旨説明をするよう依頼した。実施期間中、図書館のgraded readersのコーナー(図

書館3階の指定図書のコナー)と、異文化コミュニケーションセンター(当時、5号館9階917)の2カ所に「ブックレポート用紙」を置いて学生が個々に必要部数を取れるようにした。学生がブックレポート用紙に記入をしたあと各自で授業担当教員に提出するように指示をした。担当教員には期間中に教員に提出させたブックレポートをまとめて保管してもらい、期間終了後に、パイロットプロジェクト担当者が集計を行った後、担当教員から学生に返却をしてもらった。キャンペーン期間の最後に、参加各教員に「感想文」を授業内で学生に記入させ、異文化コミュニケーションセンター(当時)に提出をするよう指示をだしていただくよう依頼した。教員には自由裁量でブックレポートの内容を担当授業の評価に組み込んでもらうようにした。

プロジェクトに参加した教員には、以下の点に留意することを依頼した。

留意点

1. 授業内で資料に基づいて本キャンペーンの説明とブックレポートの説明をして下さい。
2. 学生には授業以外の時間にgraded readersを読むよう指示して下さい。
3. 英語課外リーディングに関して、学生の努力を機会を見つけてほめて下さい。
4. 読むことをすすめるようにし、強制はしないで下さい。
5. 読むことを中心としレポートの負担は軽くしていることを説明し、ブックレポートを提出するよう指導して下さい。

授業時間に余裕がある場合には、各教員の判断で適宜次のような対応をしてもらうよう依頼した。

1. 学生が推薦したい読み物、推薦したくない読み物とその理由を述べさせる。
2. 感想を発表させる。

以下の例のような材料で評価に組み込むことや学生へのフィードバックを適宜行うよう依頼した。

評価例

学生の参加度の評価:

1. 読んだ冊数
2. 多読にかけた時間
3. 学生の感想文

フィードバック例:

1. 学生の読書量を適時チェックする。余り読んでいない生徒については、理由を調べて(理由を尋ねることなどを通じて)できるだけ読むように勧める。
2. 最後に書かせる学生の感想文の中で、特に印象的なものを学生に公開する。

5. 結果

レポート及び感想文

以下では、リーディングキャンペーンに参加した学生がどの程度「英語での読書」という普段あまり慣れていない活動（この年にはシラバスにまだ多読は取り入れられていなかった）に従事したかどうかを知るために、学生が提出したブックレポートと感想文をもとにした分析を行った。

5.1. 学生の参加度

参加学生の学年、所属学科、読んだ冊数、多読にかけた時間は以下のものであった。参加した学生の学年は、1回生19名、2回生17名の合計36人であった。参加した学生の内訳は、国際コミュニケーション学科16名、社会コミュニケーション学科1名、国際文化学科18名、人間健康科学科1名の合計36人であった。学生一人あたりが読んだ本の冊数は、平均冊数5.3冊であった。最低1冊、最高23冊の本を読んでいた。

5.2. 読んだ本の冊数

ブックレポートによると、キャンペーン期間中、図書館から借りだして、学生に読まれた英語の本（Graded readers）の総冊数（延べ冊数）は、192冊であった。

5.3. 学生が多読にかけた時間

平均読書時間 3.86時間、最低10分、最高37時間。

5.4. 学生が読んだ本のレベル

レベル1：100冊、レベル2：30冊、レベル3：23冊、レベル4：0冊、レベル5：2冊、未記入37冊

5.5. 読んだ本を他の学生に推薦するかどうか

推薦すると答えた本142冊、推薦しないと答えた本50冊。

5.6. 学生が読んだ本の出版社の内訳

表 1

#	出版社（シリーズ）名	冊数
1	Oxford	4
2	Heinemann	12
3	Ladybird	25
4	Plus	4
5	Puffin	10
6	Scholastic	11
7	Penguin	12
8	Well-loved tales	1
9	Longman	16
10	Miniature masterpieces	5
11	Collins	2
12	Macmillan	1
13	Structurally graded	2
14	Viking press	1
15	Loughborough	1
16	Children's ights workshop	1
17	Happy families	11
18	Little apple	1
19	Amanda Welch	1
20	Allan Ahlberg	1
21	Regents	0
22	Registered office	0
23	未記入	70

5.7. 学生によるリーディングキャンペーンの感想

以下は、学生のキャンペーン参加に対する感想文から代表的なものを抜粋した。

学生1：このキャンペーンに参加していなかったら、このような本を読むことはなかったと思うので、このキャンペーンは、良い機会を私にくれたと思う。いままで、英語で書かれた本には抵抗感があったけど、レベルがたくさんあり、読みやすいものがたくさんあったので、本を読む楽しさが少しわかったような気がする。内容自体も短いものが多いので時間がかからないし、好きな時に読めた。勉強という感覚はなく、日本語で書かれた本のようにただ楽しんで読めたので良かった。これからも時間が有るときは少しずつ読んでいこうという気持ちになった。そして、どんどん上のレベルの本を辞書を使わず読めるようになりたいと思った。このキャンペーンはみんなに英語に読んでもらうためには良い機会だと思う。

学生2：読んでいるうちに英語に慣れてきて、いちいち日本語に直さなくても英語の意味が自然と頭に入ってきて、実力を付けるのにとってもいいと思いました。又、私はレベル2を読みましたがそんなに難しい単語もでてこなかったの、あんまり止まらずすらすらと

読めたので読むのが面白く感じました。これがもっと難しいもので、いちいち止まって意味を調べながら読んでいたら、おはなしの流れも遅いし、面白いと感じなかったと思います。

学生3：今回のキャンペーンで初めて英語の本を読んだのですが、自分でも読むことができるとわかり是非次はレベルをあげて読んでみたいと思いました。

学生4：私は単語力が全然ないのですが、この私ですら読めるのだと少し英語をがんばろうかという気になりました。

学生5：私はスピードリーディングが苦手なので、本を読むことでスピードリーディングのスキルを上達させることができるとおもうので、これからも、英語の本を読んでいきたいなと思いました。

学生6：今回は感想も日本語ということでとても簡単に掛けて良かったです。

学生7：これからは少しずつでもレベルをあげていきたい。英検のためにも声を出して読む練習にもちょうどいいかと思いました。

学生8：本を開くまではいやだった。でも、本を開いたとたんだと日本語でなく、すべて英語で書かれた本に惹かれていった。レベル1、2では有ったのだけど、英語ばかりで書かれている本を読んでいる自分が少しうれしかった。このキャンペーンのきっかけがなかったらこの本を手にもなかつただろうし、図書館にこういう本が有ることすら知らなかつただろう。結果的に、私はこのキャンペーンに参加できてすごく良かったと思う。またこういう機会があれば是非参加したいです。

学生9：外国の本を読む機会があまりないのでこの機会に読めてよかったです。外国の本といってもやはりどこの国も似ているんだなと思いました。特に童話などはそうおもいました。

学生10：最初はすごく読むのがめんどくさいな—と思っていたけど、レベル1でいいといわれたときに少しだけ読んでみて読めたからうれしかったです。少しでも、勉強になったような気がしました。

学生11：グレードが上がっていくに従って難しくなっていくのがよく感じられた。レベル1でも中身が面白いものもあったし、文法的にも読みやすかつたから良かった。この本を読むことを続けていけば英語が身に付きそうだとすごく実感した。

学生12：レベル1，2について、夢のある話を読むと心が自然と和んでおちつきます。英語となると初めは少し抵抗があったけど、内容に入ってしまうとどんどん読んでしまった。

学生13：グレード1でも、簡単そうで意外と難しかったり、忘れていた文法や日常使われている略語の単語など、辞書をひかず、自分の頭だけで読めるのでいやにならなかった。

学生14：内容を把握できたときはかなりうれしかった。

IV. 2000年度英語リーディングキャンペーンの試みの結果の考察および今後の課題

2000年度の英語リーディングキャンペーンの試みの主な狙いは、学生に少しでも精読とは異なる形の英語でのリーディングに親しんでもらうこと、それを通じて英語で読むことに楽しみを感じてもらうことなどであった。事前の周知期間も余りなく、教員の自主参加を原則として行ったため、参加した教員・学生の数は少なく、また、読んだ総冊数もそれほど多い量ではなかったが、1ヶ月と言う期間、実際にキャンペーンに参加した学生たちは、この経験から通常の英語の精読とは違う英語体験をしたようである。参加した学生の感想文によれば、学生たちはこのようなgraded readersを使った自主的な英語の課外リーディング活動に対して肯定的な気持ちを持ったというものが殆どであった。代表的な学生の感想は、「リーディングキャンペーンのおかげで英語の読書ができてよかった」、「英語の読書を楽しんだ」、「読む前にはわからなかったリーディングの楽しみがわかった」、「思ったよりも英語の本を読むことが難しくなく楽しいものであることがわかった」、そして、「今後も機会があれば読んでいきたい」等であった。これらの参加した学生から得られた感想文に現れた肯定的意見からみると、このパイロットプロジェクトの目標は有る程度達成されたという手ごたえがあった。また、このキャンペーンから浮かび上がったのは、このような機会を与えることで、「自分からはしなかったかもしれない英語の読書の楽しさや充実感を感じることができた」という学生の意識覚醒効果である。教員からの学生への働きかけが、学生の英語リーディングの取り組みに重要な役割を果たすことがうかがえる。

本パイロットプロジェクトでは、もともと英語授業のカリキュラムに組み入れられていない指導内容（当時）を教員に授業時間に説明をしてもらうような形式をとったこともあり、また実施までの周知期間も短かったので時間的に余裕がある教員しか参加できなかった。そのため学生の英語リーディングへの取り組みも限られたものであった。学生の英語リーディングの取り組みを増やすためには、英語リーディング（多読）を授業カリキュラムに組み込むことが考えられる。実際に、2000年のリーディングキャンペーン後にパイロットスタディーの結果も考慮して、本学語学教育センター委託科目のシラバス担当者で検討した結果、英語Ⅰ・Ⅱのシラバス共通部分にgraded readersを利用したリーディング指導を組み込むようになった。2007年度現在、英語Ⅰ・Ⅱ担当教員共通の方針として以下のことを統一している。Class reader（そのクラス内での共通教材—通常は教科書）は

各担当教員が自由裁量で選ぶ。指導法も各教員がそれぞれの方法を用いる。Class readerの指導に加えて、高校で学習したいくつかの文法項目を復習する指導を取り入れるとともに、授業外でのgraded reading指導に関しては、半期で5冊以上のgraded readersを学生各自が図書館から借りて読ませる指導を行っている。また、2007年度からMoodleを使った英語リーディングレポートの提出システムを構築して、新しい多読指導の取り組みを行っている。このシステムでは、ブックレポートの種類を増やすことで教師側のニーズに合わせて、学生が自宅からでも大学からでもブックレポートをOn-lineで提出することができるようにした。

多読に関していえば、先に引用したSuzuki (1997)の研究でも示されたように有る程度まとまった量の英文を読むことがリーディング能力の発達につながる可能性が高いことから考えると、英語I・IIでのgraded reading指導で求めている5冊の本の読破は、英語の力をつけるという点ではまだまだ不十分なものかもしれない。しかし、まず学生が自主的に選んだ英語の本を読むことを経験する機会を持つということにおいて、今後の多読指導の発展のための重要なステップであると考えられる。

学生の自主的な英語リーディングへの取り組みを奨励するためには、授業の一環としてgraded readersを取り入れる以外に、例えば、本学で従来行っているスピーキングコンテストやライティングコンテストと同様に、英語多読をコンテスト形式にして多読活動に積極的な学生を表彰することもひとつの方法として考えられる。これに関しても、2007年度からMoodleを通じて英語多読コンテストを行うことになった。

今後のgraded readersを用いた英語リーディング指導の課題としては、(1)現在の英語I・IIで実施しているgraded readersを用いた学習に対して、指導する教員側がどのように考えているのか、(2)学生はgraded readersを利用したリーディング活動についてどのようにとらえているのかなど、指導する教員側と学生双方の多読に対する意識を知ることが必要であると考えられる。2000年のリーディングキャンペーンは学生が全く強制されず自主的に取り組む活動であったため、事後アンケートで好意的な意見が多く見られたと考えられる。しかし、英語のgraded readersによる読書指導を英語I・IIの授業に組み込んだ状況の中では、学生が英語のリーディングに取り組む度合いも違う可能性が有る。また、あまり熱心に取り組まない場合にはその理由を知ることが、更に多くの学生が英語リーディングに自主的に取り組んでいくようにする指導方法を探るため必要であろう。英語リーディングを楽しみ内発的な動機 (Dornyei, 2001)を持って英語リーディングを続ける学生が育つことを目指して、今後、教員側にも学生側にも無理の無い形でそのような学生が育つ環境を作り上げていくためには、授業外での英語リーディング活動の意義に関して教員間の共通理解および教員と学生の間での共通理解を持てるようにしていくことが重要であると考えられる。

注

- 1) 日本の学校英語教育におけるリーディング指導では、かつては訳読・文法指導中心型が中心であったが、最近では、スキル・ストラテジー型の指導も行われるようになってきている。しかし、

本学学生へのインフォーマルな聞き取り調査等からは、高等学校での英語のリーディング指導では、文法訳読型および内容把握質問・言語作業型の二つのみを行っている場合もかなりあることが推測できる。また、多読指導を授業内外の活動に取り入れる試みは、最近日本でも中学校、高等学校、大学レベルで行われてきているが、取り入れていない学校も多くあるのが実情のようである。

参考文献

- Bamford, J. (1984). Extensive reading by means of graded readers. *Reading in a Foreign Language*, 2, 218-260.
- Bamford, J., & Day, R. R. (1998). Teaching reading. *Annual Review of Applied Linguistics*, 18, 124-41.
- Collins, C. (1980). Sustained silent reading periods: Effect on teachers' behaviors and students' achievements. *Elementary School Journal*, 81 (2), 109-114.
- Day, R. R., & Bamford, J. (1998). *Extensive reading in the second language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in second language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Elley, W. B., & Mangubhai, F. (1981). *The impact of a book flood in Fiji primary schools*. Wellington: New Zealand Council for Educational Research.
- Hill, D. R. (1997a). Graded (Basal) readers: Choosing the best. *The Language Teacher*, 21 (5), 21-26.
- Kanatani, K & Kochi-ken Koukou jugyoukenkyu project team [The senior high school classroom research project team of Kochi prefecture]. (2004). *Wayaku sakiwatashi jugyou no kokoromi* [A trial teaching method of providing the Japanese translation with students before class], Tokyo, Sanseido.
- Kitao, K., Yamamoto, M., Kitao, S. K., & Shimatani, H. (1990). Independent reading in English? Use of graded readers in the library English as a second language corner. *Reading in a Foreign Language*, 6, 383-398.
- Maamouri Ghrib, E. 2003. University students' and teachers' attitudes towards an EFL reading program. *TESL Reporter*, 36:1, 41-58.
- Mason, B., & Krashen, S. (1997). Extensive reading in English as a foreign language. *System*, 25, 91-102.
- Mori, S. (2002a), *The relationship between motivation and the amount of out-of-class reading*, PhD dissertation, Temple University, Philadelphia.
- Mori, S. (2002b). Redefining motivation to read in a foreign language. *Reading in a Foreign language*, 14, 91-110. Retrieved March 31, 2007, from <http://nflrc.hawaii.edu/rfl/October2002/mori/mori.html>
- Nation, P. (1997). The language learning benefits of extensive reading. *The Language Teacher*, 21 (5), 13-16.
- Robb, T. N., & Susser, B. (1989). Extensive reading vs. skills building in an EFL context. *Reading in a Foreign Language*, 5, 239-251.
- Suzuki, J. (1996). Dokusho no tanoshisa wo kaiken saseru tameno reading shido. [Teaching reading for enjoyment]. In T. Watanabe (Ed.), *Atarashii yomi no shido*. [New approach to teaching reading]. (pp.116-123). Tokyo: Sanseido.
- Takase, A. (2002), Motivations to read English extensively. *Forum for Foreign Language Education*, 1, (pp.1-17). Institute of Foreign Language Education and Research, Kansai University, Osaka: Naniwa Press.
- Takase, A. (2003). *The effects of extensive reading on the motivation of Japanese high school students*, Unpublished PhD dissertation, Temple University: Philadelphia.

- Takase, A. (2004). Investing students' reading motivation through interviews. Forum for Foreign Language Education, 2. Institute of Foreign Language Education and Research, Kansai University, Osaka: Naniwa Press.
- Takase, A. (2007). Japanese high school students' motivation for extensive L2 reading. *Reading in a Foreign Language*, 19(1), 1-18. Retrieved March 31, 2007, from <http://nflrc.hawaii.edu/rfl/April2007/takase/takase.html>
- Waring, R. (1997). Graded and extensive reading -questions and answers. *The Language Teacher*, 2.